



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス
コード番号 6879 URL <http://www.imagicarobot.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長瀬 朋彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 経営企画本部 担当 (氏名) 角田 光敏

TEL 03-6741-5742

四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	23,542	△5.6	561	△32.8	706	△24.9	673	376.2
25年3月期第2四半期	24,948	6.7	835	△40.6	940	△32.9	141	△85.6

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 920百万円 (680.0%) 25年3月期第2四半期 117百万円 (△88.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	15.85	—
25年3月期第2四半期	3.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	自己資本比率	%
26年3月期第2四半期	37,561		25,386		66.8	
25年3月期	39,101		24,973		63.4	

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 25,105百万円 25年3月期 24,792百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
25年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,000	4.2	2,100	4.4	2,200	5.0	1,200	131.3	28.25

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
詳細は、添付資料4ページ[2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用]をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	44,531,567 株	25年3月期	44,531,567 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	2,059,465 株	25年3月期	2,059,465 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	42,472,102 株	25年3月期2Q	39,373,485 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
 2. 当社は、以下の投資家向け決算説明会を開催する予定です。当説明会で配布した資料については、開催後、速やかにTDnetで開示するとともに、当社ホームページに掲載する予定です。
- 平成25年11月12日(火) 機関投資家・アナリスト向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①当第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和等の効果が徐々に現れ、景気回復への期待感が高まったものの、来年度からの消費税増税を控え、依然として先行き不透明な状況が続いております。個人消費においては、実質雇用者所得と消費マインドがともに底堅く推移する中、持ち直しの傾向が続いております。

このような環境の下で、当社グループは、映像ビジネスにおいて幅広い事業展開を行っており、グループ一丸となって、経営ビジョンに掲げております「映像コミュニケーションにおける新たな価値創造」に向けて、グループの総合力を発揮し、収益力及び財務体質を強化することに取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は235億42百万円（前年同四半期比5.6%減）、営業利益は5億61百万円（前年同四半期比32.8%減）、経常利益は7億6百万円（前年同四半期比24.9%減）、四半期純利益は6億73百万円（前年同四半期比376.2%増）を計上いたしました。

②セグメント別の業績

1)映像技術サービス事業

テレビ番組、CM制作分野を中心としたポストプロダクション作業におきましては、テレビCM関連作業の大手制作会社からの受注は堅調に推移しましたが、中小得意先からの受注が低調に推移したことに加え、テレビ番組関連の受注においても、主力のバラエティ番組の編集作業が減少したことにより、厳しい状況となっております。映画分野におきましては、DCP（デジタルシネマパッケージ）の洋画ラインナップが減少傾向にありますが、本編大作の大型案件を受注し堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は74億円（前年同四半期比12.6%減）、営業利益は5億14百万円（前年同四半期比41.7%減）となりました。

2)映像ソフト事業

広告制作におきましては、全般的に受注が低調に推移し、売上高・営業利益ともに前年同四半期を下回りました。一方コンテンツ制作におきましては、制作及び出資を行った「劇場版タイムスクープハンター」が本年8月に公開されました。また、本年12月に公開を予定している、映画「カノジョは嘘を愛しすぎてる」及び「永遠の0」の制作収入が売上及び利益に貢献いたしました。イベント映像関連では、3Dプロジェクションマッピングの映像制作においても常設案件を受注するなど堅調に推移いたしました。

なお、当事業セグメントにおいてアニメーションを主とした映像作品の企画ならびにプロデュースを提供してまいりました、株式会社ジェンコの保有全株式を譲渡したため、同社は第1四半期連結会計期間より当社の連結対象から除外いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は51億13百万円（前年同四半期比28.2%減）、営業利益は40百万円（前年同四半期比87.0%減）となりました。

3) 放送事業

放送分野におきましては、「イマジカBS」「歌謡ポップスチャンネル」「食と旅のフーディーズTV」の3チャンネルを運営しております。「イマジカBS」は、新規ケーブルテレビ局での配信を開始したことで加入者数が増加しており、「歌謡ポップスチャンネル」は、ケーブルテレビの加入者数及び広告収入が増加しました。「食と旅のフーディーズTV」は、加入者数は前年同四半期対比で減少しておりますが、広告収入等で収益をカバーしました。なお、当チャンネルは、本年12月1日よりチャンネル名を「FOODIES TV」に変更し国内唯一の食専門チャンネルとして放送してまいります。

またホテル事業におきましては、ペイテレビでの着実な販売と当四半期末の大型工事案件の受注により、前年同四半期の実績を上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は26億86百万円（前年同四半期比12.8%増）、営業損失は48百万円（前年同四半期は営業損失3億7百万円）となりました。

4) 映像システム事業

イメージング分野におきましては、主力の高速度デジタルビデオカメラの販売は、国内・海外ともに受注案件が堅調に推移し、前年同期の実績を上回りました。プロ用映像機器分野におきましては、テレビ局への大型案件の受注に加えて、HDビデオサーバー案件の納品により堅調に推移いたしました。またCADソリューション分野におきましては、最新CADシステム製品の販売が好調に推移し、業績に大きく貢献いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は47億61百万円（前年同四半期比12.4%増）、営業利益は4億60百万円（前年同四半期比54.7%増）となりました。

5) 人材コンサルティング事業

人材派遣・請負サービス分野におきましては、主力の派遣事業では、主にWeb職種やゲームエンタテインメント職種を中心に派遣稼働者数が純増したことにより、前年同四半期の実績を上回りました。映像技術者の人材派遣におきましては、派遣稼働者数及び作業単価が増加したことで堅調に推移いたしました。一方、コンテンツ制作受託の分野におきましては、ゲーム制作受託において顧客企業からの受注が伸び悩み、前年同四半期の実績を下回りました。

また、当期首より株式会社コスモ・スペースが、当四半期首より株式会社イマジカ角川エディトリアルが当社グループに加わり当セグメントに属しましたが、人材派遣事業を中心に業績が堅調に推移し、当セグメントの売上規模拡大に貢献いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は54億57百万円（前年同四半期比21.3%増）、営業利益は1億62百万円（前年同四半期比30.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて17億10百万円（6.8%）減少し、234億91百万円となりました。

これは主に、現金及び預金の増加、及び受取手形及び売掛金の減少、たな卸資産の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1億70百万円（1.2%）増加し、140億69百万円となりました。

これらの結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて15億40百万円（3.9%）減少し、375億61百万円

となりました。

②負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて20億52百万円（18.4%）減少し、91億16百万円となりました。

これは主に、前受金の減少、支払手形及び買掛金の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて99百万円（3.3%）増加し、30億58百万円となりました。

これらの結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて19億53百万円（13.8%）減少し、121億74百万円となりました。

③純資産

純資産に関しましては、前連結会計年度末に比べ4億12百万円（1.7%）増加し、253億86百万円となりました。

これは主に、四半期純利益の計上による増加、及び配当金の支払による減少等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期通期連結業績予想につきましては、平成25年5月9日に公表しました前回発表値から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,125,809	10,190,120
受取手形及び売掛金	9,046,122	7,226,332
たな卸資産	5,076,985	4,222,686
繰延税金資産	847,936	843,092
その他	1,145,482	1,030,017
貸倒引当金	△40,409	△20,707
流動資産合計	25,201,926	23,491,542
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,633,298	11,695,454
減価償却累計額	△8,420,920	△8,593,642
減損損失累計額	△201,105	△187,693
建物及び構築物 (純額)	3,011,272	2,914,118
機械装置及び運搬具	20,295,190	19,425,141
減価償却累計額	△18,937,060	△18,106,281
減損損失累計額	△275,679	△239,338
機械装置及び運搬具 (純額)	1,082,450	1,079,521
土地	2,995,964	2,997,730
建設仮勘定	39,539	51,930
その他	3,227,106	3,429,903
減価償却累計額	△2,236,719	△2,457,879
減損損失累計額	△36,763	△36,721
その他 (純額)	953,623	935,302
有形固定資産合計	8,082,850	7,978,603
無形固定資産		
ソフトウェア	450,085	518,960
のれん	77,672	39,755
その他	131,803	48,123
無形固定資産合計	659,560	606,839
投資その他の資産		
投資有価証券	3,002,038	3,275,874
関係会社株式	160,300	231,762
敷金及び保証金	786,228	802,654
繰延税金資産	842,219	894,926
その他	502,290	403,466
貸倒引当金	△135,985	△124,622
投資その他の資産合計	5,157,092	5,484,062
固定資産合計	13,899,503	14,069,505
資産合計	39,101,430	37,561,048

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,743,529	3,058,073
短期借入金	2,010,050	2,014,082
未払金	908,351	830,974
未払法人税等	206,461	222,967
賞与引当金	859,195	846,893
受注損失引当金	30,000	102,073
その他	3,411,447	2,041,593
流動負債合計	11,169,037	9,116,658
固定負債		
長期未払金	429,076	375,132
繰延税金負債	517,864	582,121
退職給付引当金	1,544,161	1,681,048
その他	468,019	419,913
固定負債合計	2,959,120	3,058,216
負債合計	14,128,158	12,174,874
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,244,915	3,244,915
資本剰余金	14,414,513	14,414,513
利益剰余金	6,842,526	6,919,280
自己株式	△51	△51
株主資本合計	24,501,904	24,578,657
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	452,717	647,644
土地再評価差額金	△17,933	△17,933
為替換算調整勘定	△143,999	△102,928
その他の包括利益累計額合計	290,785	526,783
少数株主持分	180,582	280,731
純資産合計	24,973,271	25,386,173
負債純資産合計	39,101,430	37,561,048

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	24,948,162	23,542,552
売上原価	18,450,325	16,997,113
売上総利益	6,497,836	6,545,439
販売費及び一般管理費	5,662,394	5,983,949
営業利益	835,441	561,489
営業外収益		
受取利息	11,451	2,198
受取配当金	36,763	83,488
持分法による投資利益	—	11,127
関税還付金	42,155	—
その他	48,213	63,580
営業外収益合計	138,583	160,394
営業外費用		
支払利息	5,756	6,941
為替差損	15,924	—
その他	11,611	8,616
営業外費用合計	33,291	15,558
経常利益	940,733	706,325
特別利益		
固定資産売却益	5,815	264
関係会社株式売却益	—	229,257
その他	—	51,561
特別利益合計	5,815	281,084
特別損失		
固定資産売却損	3,723	9,989
固定資産除却損	90,832	7,204
減損損失	553,036	—
その他	83,922	6,610
特別損失合計	731,515	23,805
税金等調整前四半期純利益	215,033	963,604
法人税等	47,875	279,474
少数株主損益調整前四半期純利益	167,157	684,130
少数株主利益	25,811	11,080
四半期純利益	141,346	673,050

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	167,157	684,130
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△31,512	194,927
繰延ヘッジ損益	△430	—
為替換算調整勘定	△17,255	41,071
その他の包括利益合計	△49,198	235,998
四半期包括利益	117,959	920,129
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	92,148	909,049
少数株主に係る四半期包括利益	25,811	11,080

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	映像技術サ ービス	映像ソフト	放送	映像システ ム	人材コンサル ディング	計		
売上高								
外部顧客への売 上高	8,213,884	7,103,664	2,378,108	4,135,374	3,104,909	24,935,941	12,220	24,948,162
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	250,514	22,718	3,585	99,128	1,395,754	1,771,701	△1,771,701	—
計	8,464,399	7,126,383	2,381,693	4,234,502	4,500,664	26,707,643	△1,759,481	24,948,162
セグメント利益又 は損失(△)	882,917	311,028	△307,445	297,339	233,592	1,417,432	△581,990	835,441

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△581,990千円は、持株会社(連結財務諸表提出会社)等に係る損益902,366千円及びセグメント間取引消去△1,484,357千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「映像技術サービス」セグメントにおいて、フィルム関連事業の固定資産について、減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては408,988千円であります。

また、各報告セグメントに配分していない全社資産について、減損損失を計上しております。

当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては117,680千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な変動はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	映像技術サ ービス	映像ソフト	放送	映像システ ム	人材コンサ ルティング	計		
売上高								
外部顧客への売 上高	7,206,699	5,046,611	2,678,093	4,606,810	4,000,852	23,539,067	3,484	23,542,552
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	193,455	66,838	8,312	154,459	1,456,658	1,879,724	△1,879,724	—
計	7,400,155	5,113,450	2,686,405	4,761,270	5,457,511	25,418,792	△1,876,240	23,542,552
セグメント利益又 は損失(△)	514,477	40,566	△48,581	460,051	162,328	1,128,813	△567,324	561,489

(注) 1.セグメント利益又は損失(△)の調整額△567,324千円は、持株会社(連結財務諸表提出会社)等に係る損益694,957千円及びセグメント間取引消去△1,262,281千円であります。

2.セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「人材コンサルティング」セグメントにおいて、当社の連結子会社であります株式会社イマジカデジタルスケープが、株式会社コスモ・スペースの発行済株式の80%を取得し子会社化したことにより、負ののれんが発生しております。当該事象による負ののれんを一括償却したことにより、当第2四半期連結累計期間において負ののれん発生益45,183千円を計上しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。